

5. 地域医療教育研究推進プログラム

事業参画大学間の連携プログラムとして実施したものには【連携】を付した。各プログラムの成果については、実施大学のホームページ等に詳細が記載されている。なお、プログラム名に（*）を付したものについては別添の資料が提出されている。これらについては、本事業のホームページの資料あるいは各実施大学のホームページ等でご参照いただきたい。また、参画大学からの事業報告の中で、本事業の主な5つのアドバンスト教育研究プログラムとしても報告があるものについては、プログラム名と簡単な概要を取り上げた。

【2018年（平成30年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<富山大学>

○ 高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース

【連携】（*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、日本の平均より15年先行して高齢化を迎えている北信地域において、在宅医療やゲノム医療による個別化したがん治療の演習や実習を実施した。
- ・一部、金沢大学と単位互換制度をとっている。

<金沢大学>

○ 薬物治療検討会

- ・学部生を対象として、薬物治療に関する薬学類学生の発表と金沢大学附属病院などの各専門分野の臨床医師による最新の薬物治療に関する講義を地域薬剤師に公開して、薬剤師と共に議論を行った。

○ 薬草を通じた学生と地域市民との交流・教育・研究事業の推進（*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、本学薬用植物園や県内数カ所の薬草栽培試験地において、「薬草を通じた学生と地域市民との交流・教育・研究事業」を推進した。

<岐阜薬科大学>

○ 「地域で活躍する薬剤師」に関する地域実習

- ・学部生を対象として、つぼがわ薬局において地域実習を実施した。

○ 健康サポート薬局における研修

- ・学部生を対象として、かかりつけ薬剤師・薬局として在宅医療、地域住民の健康・福祉・医療に取り組んでいるフローラ薬局の見学、かかりつけ薬剤師業務の体験研修を実施した。

<名古屋市立大学>

○ 医療系学部連携沖縄アドバンスト地域医療実習

- ・学部生を対象として、本学オリジナルで行っている多職種協働での地域医療に貢献する高度医療人材養成プログラムの一環として、コミュニティ・ヘルスケア論の授業（選択 実習）として位置づけ、1年次生からのプログラム受講者の最後の実習として1週間の沖縄でのアドバンストIPE地域医療実習を実施した。
- ・学生が現地の住民とコミュニケーションをとり独特の文化を理解するところから始まる本実習は、コミュニケーション能力、課題解決能力の醸成に有効と考えられる。
- ・本実習は、本学看護学部とも連携をとって行っており、IPEの一環として、若い教員の地域医療教育のFDとしても活用している。2018年度は、2回の実習を企画・実施した。
- ・本実習は、実習施設、宿泊施設の提供などを琉球大学医学部附属病院ならびに沖縄県北部地区薬剤師会の全面的な協力を得て実施した。

<京都大学>

○ 医療社会学

- ・改訂モデル・コアカリキュラム対応型地域医療教育プログラムの一環として、社会と医療の関わりを学び、薬局における症例を用いたPBLを展開する「医療社会学」を新設した。

<岡山大学>

○ 高度先導的薬剤師養成プログラム講演会1（*）

- ・学部生、大学院生、教員及び薬局薬剤師を対象として、「臨床試験の結果を読み解くポイントとピットフォール」と題した公開講演会を実施した。続々開発・発売される医薬品の臨床試験の結果を正しく見る能力を磨くことが新薬の有効性・安全性を適切に評価できることに繋がることから、新薬の効果の程度や特徴、単なる統計学的な有意差ではない臨床的な意義が判断できる薬剤師を養成するために本講演を実施し、討論を行った。

◇ 参加人数：学生、教員、薬剤師 合計約20名

○ 高度先導的薬剤師養成プログラム講演会2（*）

- ・学部生、大学院生、教員及び薬局薬剤師を対象として、「高齢者に対する日常診療の漢方治療」と題した公開講演会を実施した。高齢者は原因不明の不定愁訴が多く西洋薬では対応不可能な症状も少なくない。また複数の生薬の方剤である漢方は複数の異なる症状に著効を示す場合がありポリファーマシーや医療費抑制の観点からも極めて有用である。そこで、漢方診療が盛んな千葉県の漢方専門医を招いて数多くの漢方治療の症例の紹介を行った。

◇ 参加人数：学生、薬剤師、病院職員、教員 合計約60名

○ スペシャルライブトーク（*）

・学部生を対象として、「島医者が君に問います。生命といのちは違うの？」と題したインタラクティブ講義を実施した。低学年の学生に対する薬学を学ぶモチベーションを高めるための特別講義であり、この講義によって全員が夏休みに瀬戸内海の離島の医療の現状、島民の健康維持・治療上の悩み等を自主学修するフィールド体験への参加を希望したことから、効果が認められた。

◇ 参加人数：1年次生2名、2年次生2名、教員1名

○ 地域保健・医療現場におけるフィールド体験（*）

・学部生を対象として、薬物治療に関する知識にまだ乏しい低学年が地域保健・医療現場における体験を通して、問題解決能力を高めることができる研修を実施した。医師1名が全島民の保健・治療の責任を担っている瀬戸内海の離島に単身で訪島し、医療過疎地における問題点を考える2日から4日のフィールド体験を行った。

◇ 参加人数：1年次生1名、2年次生2名

○ 高度先導的薬剤師養成プログラム・岡山県薬剤師研修協議会講演会（*）

・学部生、大学院生、教員及び薬局薬剤師を対象として、「薬剤師による高齢者医療への関わり～ICFとCGAを踏まえた処方見直し手法～I」と題した公開講演会を実施した。岡山大学薬学部と岡山県薬剤師研修協議会、岡山県薬剤師会の主催で行った。岡山県薬剤師研修協議会は、岡山県病院薬剤師会、岡山県薬剤師会、岡山県女子薬剤師会、就実大学薬学部、岡山大学薬学部などから構成され、行政や流通関係者も参画する組織である。

◇ 参加人数：学生9名、教員5名、薬剤師56名

○ アドバンスト検体測定・生体モニタリング講習会

・学部生及び大学院生を対象として、昨年度主として保険薬局薬剤師向けに実施した「検体測定・簡易バイタル測定講習会」に非侵襲測定できる生体モニタリング測定を追加して発展形として実施した。

・次年度からは授業（臨床薬学演習2）として開講する予定である。

◇ 参加人数：学生6名

<徳島大学>

○ 徳島大学臨床薬剤師交流ネットワーク（TPN）

・学部生、大学院生及び薬剤師を対象として、臨床で活躍中の医療関係者（医師・薬剤師・看護師等）を講師として招き、地域薬剤師との身近な勉強会並びに長期実務実習を行う市中の病院・薬局との情報交換の場として参加型研修会を年数回実施した。

・地域薬剤師への生涯学習の場として先進的薬剤業務の知識習得をサポートするだけでなく、学部学生にも自主的な参加を呼びかけ、徳島を拠点とした薬剤師・薬学生の交流の場として職能教育に役立つと期待される。また学生が地域薬剤師と共に学ぶことによって刺激を受け、就学意識の向上および生涯学習の重要性の認識につな

がることが期待される。

◇ 参加人数：学生82名、薬剤師20名

<長崎大学>

○ 17大学シンポジウム「アドバンスト教育研究プログラムのグローバルな展開」

【連携】

- ・学部生及び大学院生を対象として、2016年度から九州国立3大学（長崎大学、九州大学、熊本大学）が共同でシンポジウムを毎年1回開催している。本年度は熊本大学薬学部にて開催し、基調講演は広島大学の小澤教授にお願いした。国内外の研修プログラムに参加経験のある6名の学部生、大学院生にその取組内容を紹介してもらい、その後全体討論を行った。

<熊本大学>

○ 学生団体”Amakusa Medical Students (AMS)”による研修会

- ・学部生及び大学院生を対象として、地元の地域医療の現状を学ぶ研修会を学生自ら開催し、故郷における次世代の地域医療の担い手として自らできることを考える研修会を実施した。

2) その他（大学としての取組等）

<金沢大学>

○ 北信がんプロ **【連携】** **(*)**

- ・大学院生を対象として、文部科学省の大学間連携による「がん医療人材養成拠点」において、各大学の特色を生かした教育プログラムを構築し、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」の養成を図った。
- ・超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）は、2期の北陸がんプロ（金沢大、富山大、福井大、金沢医大、石川看護大）の実績を踏まえ、先駆的ゲノム医療を実施し、信州大を加えた国公立の6大学で県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人育成システム構築を目指すものである。

<広島大学>

○ 遺伝子検査セミナーの開催

- ・個人の遺伝子検査が簡易に行われるようになり、間違った認識を持つ一般市民が増えるなど問題が発生している。個々の薬局薬剤師が関与することによりこれを解決することを目指して、薬局薬剤師と大学の共同での遺伝子検査セミナーを開催し、一般市民への啓発活動を行った。

<長崎大学>

○ 在宅医療・福祉コンソーシアム長崎

- ・学部生を対象として、在宅医療・福祉コンソーシアム長崎を実施した。
- ・薬学・看護学の統合教育体制を確立している長崎県内の国公立3大学（長崎大学・長崎県立大学・長崎国際大学）が、さらに医学・歯学等の教育者を加えた協働教育体制の充実を図り、県内の4自治体・12職能団体・2法人と連携し、一体となって、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成の拠点作りを目指している事業である。
- ・2018年度は、長崎県内大学で単位互換が可能な授業科目として、薬学部から在宅医療関連の4つの科目を提供した。

○ 長崎薬学コンソーシアム

- ・学部生を対象として、長崎薬学コンソーシアムを実施した。薬学教育について、長崎大学薬学部、長崎国際大学薬学部、長崎県福祉保健部、長崎県薬剤師会、長崎市薬剤師会、佐世保市薬剤師会及び長崎県病院薬剤師会が一同に会し、情報交換を行うことにより、長崎県における薬学教育の充実及び発展を図った。